
平成 29 年

5 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業経営課(農業革新支援センター)の取組～



岐阜県農政部農業経営課

新たなブランドづくり

中濃農林■ゆず かみのほゆず産地戦略会議開催

農業普及課では、今年度から3年間、かみのほゆずを対象に「新たなブランド創出支援事業」に取り組む。5月23日には、かみのほゆず(株)、JAめぐみの、関市東商工会、関市、県農業経営課を招集し、農業普及課主催による「かみのほゆず産地戦略会議」を開催した。会議では、産地の現状や課題、3ヵ年計画等を確認し、かみのほゆずのブランド化に向けた取り組みについて協議した。今年度は、栽培実証ほ設置や栽培講習会開催、福祉施設との連携やGAP手法の導入検討、新商品開発を行う計画となっており、関係機関と連携しながら事業を推進する。



【戦略会議の様子】

東濃農林■アスパラガス アスパラガス研究会の発足

農業普及課では、5月1日、瑞浪市山田町のほ場で今年度最初のアスパラガス勉強会を開催した。勉強会には、管内から6名の生産者が参加し、立茎のタイミングと今後の管理方法について講師となる先進農家から研修を受けた。

また、勉強会の開催に合わせて、アスパラガス栽培に前向きに取り組む生産者からなる「アスパラガス研究会」を立ち上げ、産地づくりに向けた技術研鑽と情報交換、意欲向上を図る場とするよう呼びかけた結果、今後は「新たなブランド創出支援事業」を活用した研究会として活動することとなった。今年度は、3回程度の勉強会の開催の他、先進地の視察などを実施する予定である。

農業普及課では、今後の活動の中で研究会員数増加に向けた取り組みを行い、アスパラガスの生産拡大、産地化を目指す。



【勉強会の様子】

下呂農林■エゴマ 飛騨小坂あぶらえ生産組合通常総会、種まき講習会

飛騨小坂あぶらえ生産組合の通常総会が、5月10日に開催され、研修会や搾油方法など29年度事業計画などを協議した。

加えて、生産拡大の方針や在来種の保全など組合の目指す姿について話し合いも行われた。

総会終了後には、種まき講習会を開催し、農業普及課から省力化・機械化に対応できる栽培技術として、セルトレイ等を使用した育苗方法について実演を行った。

今後、移植時期や収穫時期に合わせて講習会や先進地視察を予定しており、農業普及課では、一層の生産振興に向け省力栽培技術の普及など関係機関と連携して支援を進める。



【普及指導員による
育苗方法の実演】

多様な担い手づくり

岐阜農林■カキ 平成29年度JAぎふ柿塾 開講

JAぎふは、県の果樹担い手育成サポートセンター支援事業を活用し、管内の主要品目である柿の新規担い手育成、基礎的な技術修得を目的として、昨年度から「柿塾」を開催しており、農業普及課でも支援してきている。

5月1日には、本年度第1回目の講義が開催され、柿生産において重要な摘蕾作業について、農業普及課やJAぎふ職員が講師となり、室内



【柿塾の現地実習】

講義および現地実習を行った。また、柿塾開講に当たり、県農業経営課から、受講者に向けた激励の言葉があった。

本年度の受講生は、20～60代の10名で、後継者として新規就農を目指す方もあり、熱心に受講していた。今後、年5回程度の開催を計画している。

可茂農林■白川町・東白川村 美濃白川就農応援会議設立総会・研修開始式開催

5月17日に、白川町黒川ふれあいセンターにて新規就農者への支援を通して、農業振興と定住人口の増加による元気な地域づくりを推進するための「美濃白川就農応援会議」の設立総会および研修開始式が開催された。

この応援会議の設立により、研修生の募集から研修実施、就農準備、就農後の定着までの農業関係者だけでなく、地域の関係団体も含めて一体となって支援していく体制が整った。そして、研修開始式では、今年度の研修生が就農応援会議の会員等へ就農に対する期待など農業への抱負を力強く語った。

農業普及課では、今後も運営管理や研修生の就農支援、研修生と地域の橋渡しを積極的に取り組んでいく。



【研修開始式の様子】

売れるブランドづくり

農業経営課■自給飼料・畜産農家 土壌分析データに基づく自給飼料の適切な肥培管理

5月24日に高山市内の肥育農家2戸において牧草やトウモロコシなど自給飼料を栽培する圃場の土壌採取を行った。

土壌分析を実施し、土壌のpH、EC及びミネラル含有量を把握することで、堆肥及び化成肥料の適正散布を行い、良質な自給飼料を生産することがねらいである。

農業経営課の農業革新支援専門員は、農業普及課地域支援係、畜産研究所等と連携して農家巡回、自給飼料生産指導等を行い、適正な堆肥の利用に取り組む計画である。



【採草地の土壌採取】

西濃農林■小麦 高品質な小麦生産を目指して～適期の病害防除及び収穫を指導～

西濃地域の小麦は「イワイノダイチ」と「さとのそら」が作付されている。4月中旬以降、出穂期を迎えたことから、農業普及課とJAにしみのは赤かび病の適期防除を各営農組織に周知徹底を図った。赤かび病発生の好適気象条件日はあったものの、適期防除のおかげで、今年度は赤かび病の発生は確認されていない。

今後、ほ場巡回及び担い手を対象とした会議を通じて適期収穫に向けた支援を行う。

恵那農林■クリ 「恵那管内の果樹等振興に関する担当者連携会議」を開催！

5月23日に、JAひがしみの、中津川市、恵那市、県果樹振興担当者が参集し、連携会議を開催した。

連携会議では、農業普及課の重点課題「めざせ1.5億円！東美濃クリ販売額の増加」の取り組みに向け、産地維持・拡大について関係機関と意見交換、情報交換を行った。

現地検討では、中山間農業研究所中津川支所の試験研究状況や来年度移転予定先の工事進捗状況等を確認した。

その後、土地利用型経営体の（農）やさかファームのクリ新植ほ場



【現地検討の様子】

において、代表者からクリを導入した経緯、今後の経営方針等について説明を受け、土地利用型経営体におけるクリを導入した複合経営の可能性を検討した。

農業普及課では、当地域ならではのクリの生産振興、担い手育成・確保に向けて、今後も支援を継続する。

飛騨農林■果樹 「飛騨おとめ」プロジェクトチーム会議開催

飛騨地域では、県オリジナルのモモ新品種である「飛騨おとめ」の本格的出荷を目前に、産地と関係機関、地元高校生が連携し、知名度向上のためのPR活動に取り組んでいる。

5月24日に飛騨高山高校山田キャンパスにて、「飛騨おとめ」プロジェクトチーム会議が開催され、会議には高校生とJAひだ果実出荷組合協議会長、JA職員、中山間農業研究所研究員及び農林事務所職員が出席し、今年度のPR活動について検討した。

今年は、昨年実施した地元スーパーに加え、朝市でのPR試食販売会も計画しており、昨年の反省点を活かしたアンケート調査の実施や「飛騨おとめ」の特徴を示したPR資材の製作について意見交換を行った。

農業普及課では、今後も引き続き「飛騨おとめ」のブランド化に向けて、安定的な品質を確保できる栽培技術の確立を支援していくとともに、知名度向上に向けた取り組みも実施していく。



【高校生との意見交換】

住みよい農村づくり

揖斐農林■3町、JA 揖斐地域農業振興連携会議開催

揖斐農林事務所農業普及課は、5月19日に管内の3町、JAの関係者により、揖斐地域農業振興連携会議を開催した。会議では、今年度の普及指導計画の課題や取り組み内容、県の農業振興事業、農地整備事業、各機関の農業振興計画、営農指導計画、販売計画等について幅広く情報提供及び意見交換が行われた。会議を通じて、担い手育成やGAPの推進など、揖斐地区の農業振興のため連携して取り組もうとの機運が高まった。

農業普及課では今後も関係機関と連携し、普及指導計画の達成に向けて活動を展開していく。



【連携会議の様子】

郡上農林■エゴマ 管内生産者を対象にエゴマ栽培研修会を開催

これまでの聞き取り調査により郡上市北部の標高の高い地域では、エゴマを伝統的に栽培・利用していることがわかってきた。その一方、近年は市内全域で遊休農地等を活用して販売を目的としたエゴマ栽培が盛んになってきている。

農業普及課では、遊休農地対策となるエゴマ栽培を推進するため、5月30日に郡上総合庁舎で栽培研修会を開催した。

当日はエゴマ栽培者、関係機関職員など16名の出席者に対して、農業普及課からエゴマの特徴や明宝エゴマ生産組合の取組みを紹介した。また、中山間農業研究所の研究員を講師に招き、エゴマの播種・育苗のポイントについて研修を行った。その後、郡上市内に点在している生産者間の連協を図るための情報交換を行った。

エゴマの栽培研修会は生育盛期の8月と収穫前の10月にも開催し、栽培技術の向上を図ると共に、更なる生産拡大・加工品開発による特産品化を図っていく。



【研修会の様子】